

そうだ! 遺跡へ行こう (宇都宮市根古谷台遺跡)

栃木県立博物館 教育広報課長 馬籠 和哉



(奥)元1号長方形大型建物(手前)掘立柱建物(木柱列か)

令和3(2021)年七月、自然遺産「奄美大島・徳之島、沖縄島北部および西表島」とともに青森県三内丸山遺跡に代表される「北海道・北東北の縄文遺跡群」が国内25番目の「世界遺産」となった。紀元前に遡る世界遺産は国内初だ。縄文ブームの再来を予感するのは筆者だけではないはずだ。

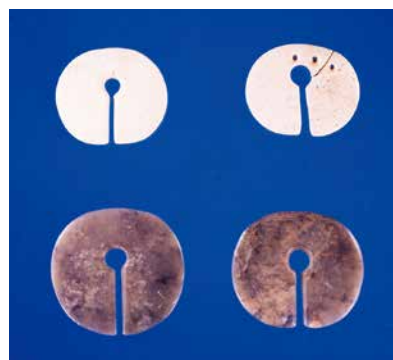
そこで、今回紹介するのは宇都宮市上欠町の根古谷台遺跡である。この遺跡のおすすめポイントは、縄文時代の建物が復元され、「うつのみや遺跡の広場」という遺跡公園になっている点だ。ほとんどの遺跡では、説明の看板があればいい方で、道路や建物の下になつてしまつていて往時を想像することは難しい場合が多い。これから縄文時代の遺跡探訪を始める方には最初に訪れて欲しい遺

跡だ。

根古谷台遺跡は、宇都宮市営墓地の建設に先立つて昭和57(1982)年の調査開始から昭和62(1987)年まで6年間にわたって発掘調査が行われた。そしてこの遺跡を有名にしたのが縄文時代前期の大規模集落跡だ。墓域となつている中央広場を取り囲むように大小さまざまな建物が建てられていた。その中でも特徴的なのが「長方形大型建物」である。長軸23メートル高さ8メートルに復元されている。現在の中に入ることにはできないが、堅穴住居のように床が掘り下げられて半地下式になつていない。入口から奥まで平らで、炬はなかったようだ。このような建物が16棟みつかつている。

中央の墓域からは300基を超える墓穴がみつかつているが、その中の八基から玦状耳飾り(切れ目のあるドーナツ状)、管玉、小玉といった副葬品と思われる品々が出土している。

このように数々の貴重な発見のあつた遺跡のため、墓地の計画が一部変更され、遺跡公園として整備されることになった。さらに昭和63(1988)年に遺跡が国指定史跡として、平成2(1990)年に玦状耳飾りなど玉類が国重要文化財に指定された。二重指定されるほど、質・量ともに充実した遺跡なのである。



玦状耳飾り(国指定重文)

それでは最後に「うつのみや遺跡の広場」としてのまどころ紹介もしておきたい。場所は宇都宮市の西部、鹿沼市との境に近いところにある。市営墓地「聖山公園」の一番奥まで進むと、保存・整備された古墳の周りに駐車場がある。公園の入口にはガイダンス施設があり、出土品や建物の復元模型、遺跡周辺のジオラマなどを見学してから遺跡を散策すると理解がより深まる。また周辺の森も現在の木々を活かしながら、クリ・トチノキが植栽されており、縄文の森の雰囲気十分だ。一番奥には展望台があり、遺跡全体を見渡せる施設となつている。

なお、根古谷台遺跡展示施設の模型を来月九日から始まる栃木県立博物館企画展「木と木の実の考古学」でも一部展示する。現地と合わせて見学をおすすめしたい。

※写真はいずれも、宇都宮市教育委員会提供

あなたの本づくりをお手伝いします。

一冊のぬくもりを大切にしたい。

これが私たちの編集コンセプトです。

図書出版・企画・編集・制作

36th
SINCE 1985

随想舎

<http://www.zuisousha.co.jp>

〒320-0033 栃木県宇都宮市本町10-3 TSビル

まずは
お電話を ☎028-616-6605

総務・営業部 1F TEL.028-616-6605 FAX.028-616-6607 編集・制作部 2F TEL.028-616-6606 FAX.028-616-6608 e-mail: info@zuisousha.co.jp